

Press Release

2008年12月26日
王子製紙株式会社
王子ネピア株式会社
財団法人日本ユニセフ協会

トイレと水の問題で失われてゆく命を守りたい ネピア - ユニセフタイアップ キャンペーン

「nepia 千のトイレプロジェクト」結果報告

家庭に新設されるトイレ約1,200。トイレや給水設備が新設または修復される学校15校。
東ティモールの子どもとその家族13,000人以上がトイレを使えるようになります。

王子製紙株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：篠田 和久、以下：王子製紙）、王子ネピア株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：林 孝治、以下：王子ネピア）、および財団法人日本ユニセフ協会（所在地：東京都港区、会長：赤松 良子、以下：日本ユニセフ協会）は、開発途上国のトイレと水の問題を改善するため、2008年7月1日（火）から10月31日（金）までをキャンペーン期間とした「nepia 千のトイレプロジェクト」を展開いたしました。

今回のプロジェクトは、4ヶ月間のキャンペーン対象期間中にネピア製品をお買い上げいただいた金額の一部で、東ティモール民主共和国（以下：東ティモール）に1,000の家庭用トイレの新設と15の学校のトイレや給水設備の新設または修復、衛生習慣の普及と定着のための活動を支援することを目標としたものです。

プロジェクトの支援によって新設される家庭用トイレは、当初計画を上回り約1,200、トイレや給水設備の新設または修復ができる学校が15校、これによりトイレを使えるようになる子どもとその家族が13,000人以上になる見込みとなりました。また、衛生習慣の普及・定着のための啓蒙活動、コミュニケーション活動も、現在、幅広く実施されております。

王子ネピアからユニセフに贈られる支援金額は2,043万円となり、12月19日（金）に、王子ネピアから日本ユニセフ協会への贈呈式が執り行われました。

現地東ティモールでは、この支援金をもとに、ユニセフがトイレ作りに必要な便器やセメントなどの資材を提供し、地元NGOなどによる技術指導や衛生習慣の啓蒙普及活動のもと、住民たちが一丸となって我が家のトイレ作りを進めております。この様子については、ウェブサイト（<http://1000toilets.com>）などで今後、詳しくお知らせして行く予定です。

王子製紙、王子ネピアおよび日本ユニセフ協会は今後も、世界の水と衛生の問題に関して日本での理解を深め、環境改善につながる努力を続けてまいります。

以上

<本件に関する報道関係からの問い合わせ先>

「nepia 千のトイレプロジェクト」

王子ネピア株式会社 担当: 斎藤、高瀬

Tel: 03-3248-2855 / Fax: 03-3547-1454

参考資料

■贈呈内容および東ティモールでの具体的支援活動

贈呈先: ユニセフ(国際連合児童基金)

贈呈日: 2008年12月19日

贈呈額: 約2,043万円(この内の一部は2008年3月に先行寄付されています)

寄付金使用用途:

- ①エルメラ、リキサ、マナウトゥ、ディリ各県の村における約1,200の家庭用トイレ建設
- ②エルメラ、リキサ、オエクシ各県の15の小学校におけるトイレや給水設備の建設や修復*
- ③衛生に係る病気を減らすために求められる適切な衛生習慣の普及活動
- ④TV やラジオを通じた衛生習慣の啓蒙活動や教材の制作

*学校における支援活動は、ユニセフが費用の一部を拠出いたします



贈呈式の様子

■東ティモールのプロジェクトの進捗について

「nepia 千のトイレプロジェクト」では、12月3日から5日まで、今回の支援対象地区となったファヒティー村などを訪問し、現地のトイレ作りの実際を詳しく視察してきました。

支援対象となる村では、衛生やトイレに関する啓発、衛生習慣の普及活動が進められています。ユニセフは、支援活動の計画をたて、便器やセメントなどのトイレの建設に必要な資材の提供し、モニタリングを行っています。村では、NGOの指導のもと、住民たちが、資材の運搬やトイレの建設などを担っています。

家庭用トイレは一家族ごとの専用トイレで、村を上げてのトイレ作りが進んでいます。

このトイレ作りでは、現地では入手不能な便器やセメントなどの資材をユニセフが支給し、地元で育成されたNGOなどが、東ティモールの実情にあった家庭用トイレ作りの技術を指導して実施しますが、トイレの小屋部分は材料も地元の人々が自分で集め、思い思いの工夫を凝らして建て上げます。



トイレの穴掘りの様子



完成した家庭用トイレ



天井や囲いは、住民みんなで
身近にあるものを使って建設